

4 学習指導のポイント

ふくしま学力調査を授業改善等に生かす学習指導のポイントをまとめました。

(1) **教科別授業改善の視点**では、授業改善の視点を概的に示しています。

(2) **国語**、(3) **算数・数学**では、今年度の調査問題から、各学年、各教科一題ずつ選定された公開問題(※)について、県全体の児童生徒の正答率や誤答の状況を示すとともに、学習指導上の課題及び授業改善に生かす指導上のポイントをまとめました。また、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」及び全国学力・学習状況調査問題との関連や活用の仕方等をまとめました。ぜひ授業改善に御活用ください。

なお、ふくしま学力調査は、児童生徒の学力の伸びを正しく捉えるという調査の性質上、問題は原則非公開となっており、問題の秘匿性の保持のため、調査後の問題冊子は回収します。また、コピーや書き写しも禁止となっております。

(1) 教科別授業改善の視点

1 国語

① 育成すべき資質・能力を明確にした指導計画の作成

主体的・対話的で深い学びを実現するための

- ・自身の学びや変容を自覚できる場面
- ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面
- ・児童生徒が考える場面と教師が教える場面 等

の視点は、1単位時間の授業ごとに考えるのではなく、単元などの一定程度のまとまりごとに検討します。指導事項を基に各時間の具体的な学習活動を構想し、単元の指導と評価の計画を作成することが大切です。

② 言語活動の質の向上

国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多くあります。それは、国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としているからです。各学年の学習指導を孤立させず、児童生徒の発達や学習の状況に応じた言語活動を言語活動例を参考にして位置付けます。

③ 評価方法の工夫・改善

学習評価は、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことに重点を置きます。評価の記録に用いる評価については、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、単元などの一定のまとまりの中で、その場면을精選することが大切です。

2 算数・数学

① ゴールからの授業構想

授業の目標をもとに、その授業で児童生徒がどのような振り返りをするのか、具体的な児童生徒の姿でイメージし、学習課題を設定していきます。そうすることで、授業に芯が通り、課題解決場面でのコーディネートが見えてきます。あくまで、授業のゴールへ向かうレールを引くのではなく、児童生徒の考えをつないでいくことを大切にして授業を構想することが大切です。

② 学びの質を高めるコーディネート

児童生徒が学習内容を自分事として主体的・対話的に学ぶことができるように、教師は授業をコーディネートします。児童生徒が働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして深い学びを実現します。そのために、授業では、児童生徒の考えや気づきをつなげる問い返しや、再生・要約など、共有させる働きかけにより、思考に深まりをもたせ、学びの質を高めることが期待できます。

③ 適用と振り返り

全体で確認しながら解決した問題を基に、児童生徒自身が数値や条件を変えた問題を自力解決するなど、解決の過程を振り返りながら確かめることができる場を設定しましょう。振り返りながら適用することで、より確かな理解につながったり、新たな問いが生まれたりし、深い学びとなることが期待できます。

※ 公開問題は、連携協力協定を結んでいる埼玉県と同一のものであり、必ずしも県全体の課題となっている問題ではありません。本項目で紹介している「指導上のポイント」等を参考に、各学校や各学級において課題となっている部分についてどのような授業改善ができるか考えるヒントにしてください。